

# 山本かずひろ

## 活動レポート ACTIVITY REPORT



事務所 〒630-8325 奈良市西木辻町121-2-302 Tel/Fax . 0742-26-2026 <https://www.yamamoto-kazuhiro.com>

奈良市議会では、平成30年6月25日に、奈良県と奈良県教育長及び奈良県議会に対し「県立高等学校適正化実施計画（案）の議決の延期と説明を求める意見書」を提出し、奈良県教育委員会が進める県立高等学校の再編計画に対し計画案の見直しを求めています。奈良市議会の山本かずひろは、教育問題に積極的に取り組み市民目線で議員活動を行ってきました。この問題のほか、これまでの議会活動と現問題においても主張をご報告いたします。

## 教育予算の身を切る改革は未来を切り捨てる

### 教育予算を切り捨てる改革

奈良県では、教育予算を切り捨てる改革が進められ、子どもたちの教育環境に関する校舎の耐震化など生命身体に関わる予算もバツサリと切られてきました（裏面参照）。大阪府でも教育予算が切られ、教職員も他府県への流出が多いと聞きます。授業料の無償化に関して、私立学校に負担を強いる大阪府のキャップ制度では、私立学校も崩壊します。日本一の質の高い教育は、補助金で縛られて教育活動が制限されてしまっただけで、できないからです。

これからの奈良市の教育を考える上でも県の教育予算を論じなければなりません。そのような重要な観点から、奈良市議会議長会会長の川田裕氏（香芝市議会議員）にも切実に要望を行い、理解を得ました。奈良市議会ももちろんのこと、奈良県全体の問題として、12市議長会でも取り組む問題だと考えます。

### 身を切る改革の実態は？

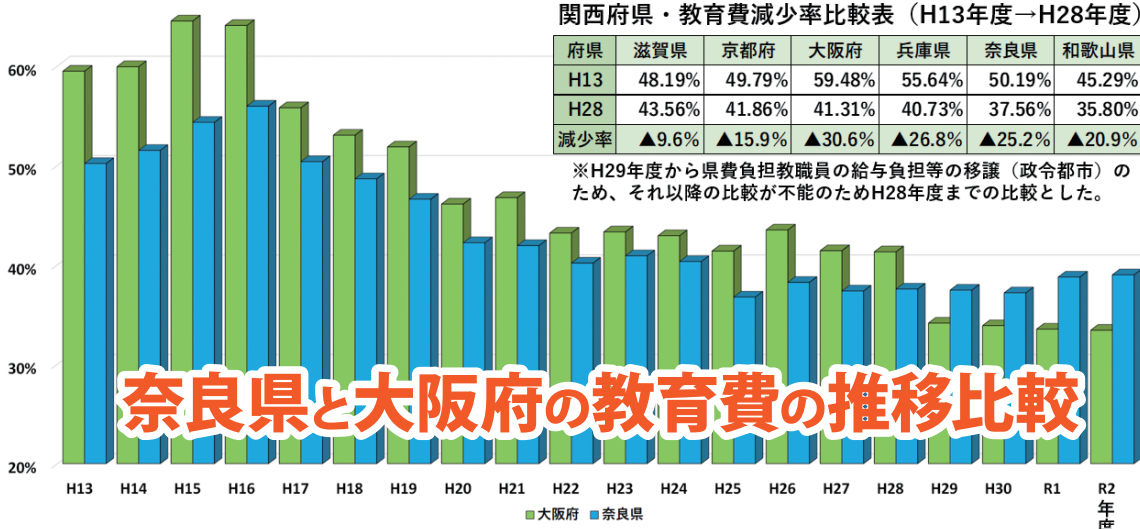
下記のグラフは、奈良県と大阪府の比較を示しています（提供・川田会長）。奈良県の身を切る改革としての教育予算の削減は酷いことが一目瞭然です。しかし、奈良県以上に悪化しているのが大阪府です。20年間で、大阪府では30%以上も教育費を削減しています。報道でも、公立高校の入学志望者が定員を3年間下回ると閉校するというルールは教育の理念から掛け離れているとの指摘があります。

奈良県における校舎の耐震化の進捗は全国でも最低レベルでした。議会での追及もあり、ようやく進みました。この2年間は工事費で予算額がやや上昇しています。しかし、決して本来の教育予算が増えた訳ではなく、教育予算を切り捨てる改革は、教育の疲弊をもたらししています。大阪のように身を切る改革と称して、学校を次々と閉校させるべきではありません。

関西府県・教育費減少率比較表（H13年度→H28年度）

府県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
H13	48.19%	49.79%	59.48%	55.64%	50.19%	45.29%
H28	43.56%	41.86%	41.31%	40.73%	37.56%	35.80%
減少率	▲9.6%	▲15.9%	▲30.6%	▲26.8%	▲25.2%	▲20.9%

※H29年度から県費負担教職員の給与負担等の移譲（政令都市）のため、それ以降の比較が不能のためH28年度までの比較とした。



### 奈良県と大阪府の教育費の推移比較

■ 奈良県  
■ 大阪府

奈良県と大阪府の教育費は激減しています。これ以上の教育予算を切り捨てる改革は、教育を崩壊させてしまいます。

※総務省決算カードから川田氏作成、算出：教育費÷標準財政規模＝教育費率（標準化）  
教育費：目的別歳出（決算額）

# 奈良県立高校普通科激減問題



奈良県立高校普通科が激減した問題は、奈良市内の中学生や保護者たちの間で大きな話題です。平成30年に県立高校再編計画が策定され、平城、西の京、登美ヶ丘高校が閉校されました。今年も受験でも、高校卒業後さらに大学受験を目指す中学生の重要な選択肢である普通科が狭き門となりました。

高校再編を進めるべきであつたと考えます。その影響を受けて、市内の多くの生徒たちが、他府県に流出し、次世代を担う若者が奈良で学ぶことができない事態となつていきます。私の調査では、市立中学校における進路指導の現場でも、志望者の多い普通科の選択肢が激減されたことの悪影響が見られ、是正の必要性を痛感しています。

## 奈良高校建替えを

奈良高校は創立100周年を迎えるに当たり、法蓮町の旧校舎を建て替える計画でした。しかし、教育費が著しく減らされ、校舎の耐震化さえも中止され、同規模の平城高校を追い出す形で、移転させられたのです。奈良高校と平城高校の両方にとつて不本意でした。教育理念なく完全に行政都合で行われた教育を切り捨てる改革は、奈良の公教育を破壊しました。

奈良高校が伝統を育んできた旧校舎の敷地で新校舎を建設し、平城高校を再興すれば、全ての問題が解決します。



## 平城高校再興を！

奈良高校の建替えが実現すれば、平城高校も再興でき、普通科定員も十分に確保できます。高校再編による改悪は、耐震性のない校舎を建て替えるという当たり前の対策では正できません。40年間の歴史があり、素晴らしい地域教育も実行してきました。平城高校は、それ単独で他に代え難い価値がありました。

奈良市民からも、県の強引な教育予算を切る改革には、強い反発が多く届いています。私も市議会議員として、県知事が教育への大胆な投資をしてくれることを求めます。

## 高校再編問題に詳しい三橋弁護士に直撃



三橋和史弁護士(左)と山本かずひろ(右) 奈良県立高校再編の問題点について伺った。

私は、奈良市内の中学生にも深刻な影響が生じていると考え、改めて調査しています。高校再編問題に詳しい三橋弁護士は「県教委の進め方は法的にも問題があり、普通科の激減は、子どもたちの学びの保障の観点からも問題がある」と解説します。普通科定員が十分確保されなければ、子どもたちは中学生の段階から将来の選択を迫られ、普遍的な学問に取り組み機会を失ってしまいます。教育を切り捨てた結果、三校もの普通科高校が閉校に追い込まれ、子どもたちが犠牲になりました。それは、将来の奈良を衰退させます。また、三橋弁護士は「私たち大人が各学校の伝統や歴史を尊重するところ、子どもたちの郷土を愛する心を養うという教育基本法の定める目標にも適合する」と指摘します。私も引き続き市議会でも取り上げます。

**プロフィール** 奈良市議会 前副議長 元奈良市監査委員 (2020年7月から2021年7月)

- 学歴(学位) 関西大学 大学院修士(政策学) 学位論文:現代日本の地方政治における二元代表制 -地方議会の現状と課題-
- 自由民主党
  - ・奈良県連政務調査会審議会委員
  - ・奈良市支部 副支部長
  - ・奈良県第一選挙区支部 副政調会長
  - ・奈良県第一選挙区支部 青年局長 (2012年から2018年)

SNSでも日々の情報発信をしています

Facebook QR Code Twitter QR Code

